

# 防災情報

(令和7年5月10日 自主防災部部会)

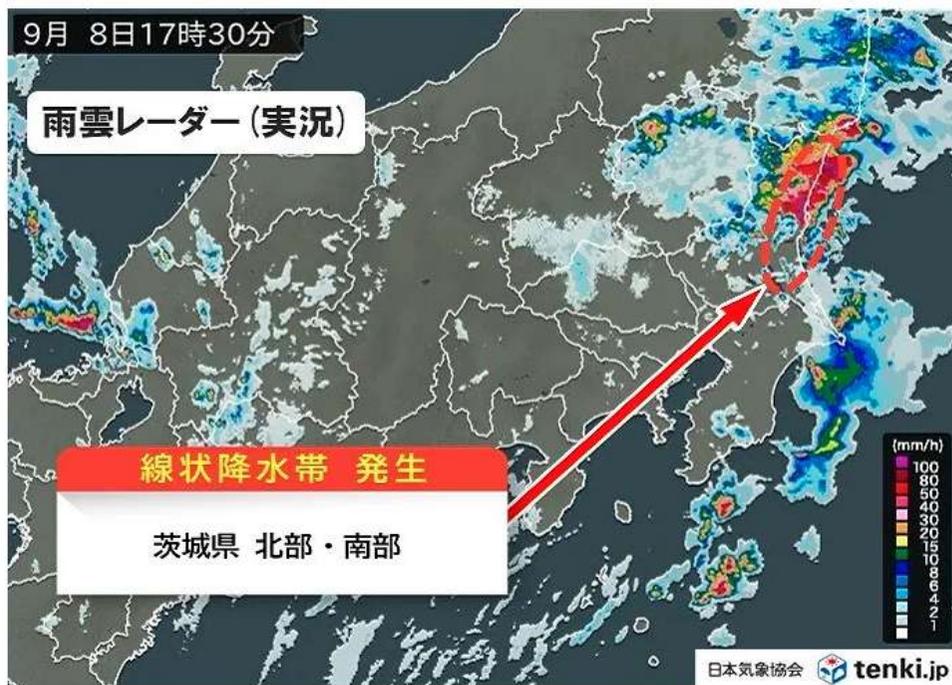
## 目次

- (1)最近の自然災害
- (2)日本をとりまく環境
- (3)自然災害の特性
- (4)防災から減災へ
- (5)自助・共助・公助
- (6)災害リスクの確認
- (7)避難

# 1. 最近の自然災害

(1) 台風13号(令和5年9月8日)

線状降水帯が発生し豪雨となり日立市でも大きな被害を受けた。(1時間雨量97mm,24時間雨量268mm)



## (2)能登半島地震(令和6年1月1日)

マグニチュード7.6,震度7の大地震が発生し能登半島を中心に大きな被害が発生した。



### (3)能登半島豪雨(令和6年9月21日)

線状降水帯が発生し豪雨となり土砂災害、浸水被害等が発生した。



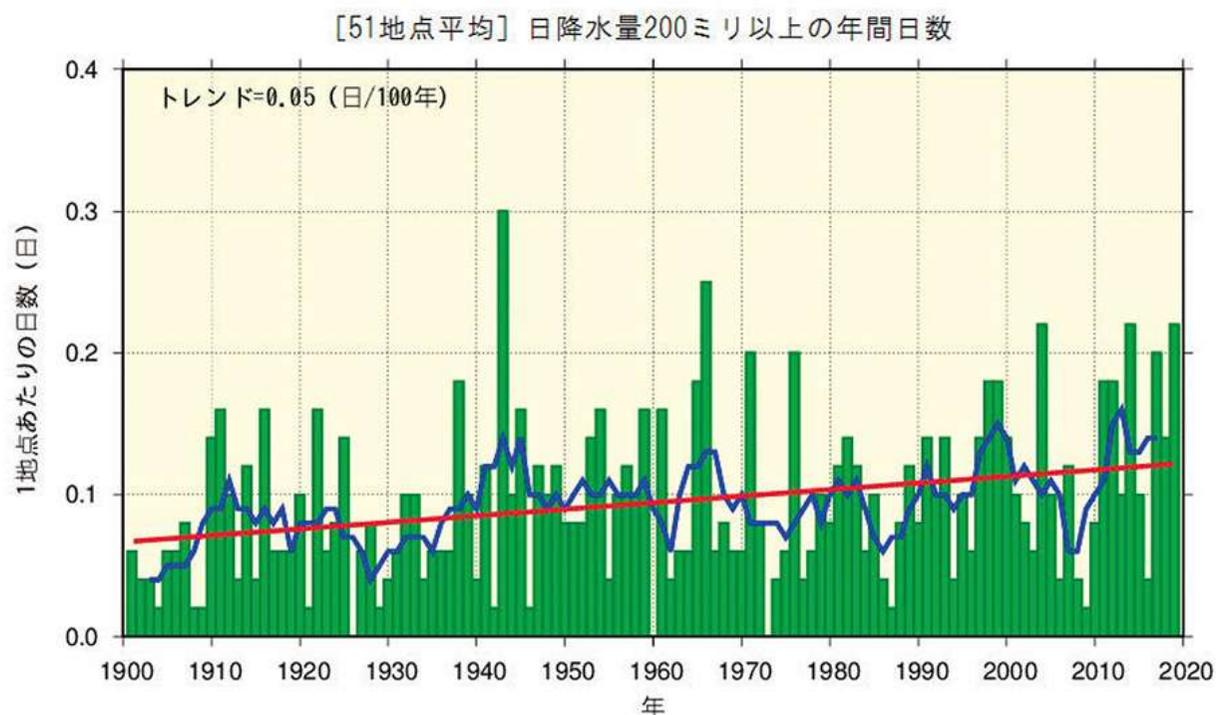
## 2.日本をとりまく環境

日本は4つのプレートが集中している位置にあり、多数の活断層(2000カ所)も存在するため地震が多い。



地球温暖化により海面水温上昇、大気中の水蒸気量増加を生じ、その結果、豪雨になる傾向がある。(気温が1°C上昇するごとに、大気中に保持できる水蒸気量は約7%増加)

### 日降水量 200 ミリ以上の年間日数の変化



棒グラフ(緑)は1地点当たりの各年の日降水量 200 ミリ以上の年間日数。年ごと、あるいは青線(5年移動平均)で示される数年ごとの変動を繰り返しながらも、赤線で示されるように長期的に大雨の頻度は増加している。

### 3. 自然災害の特性

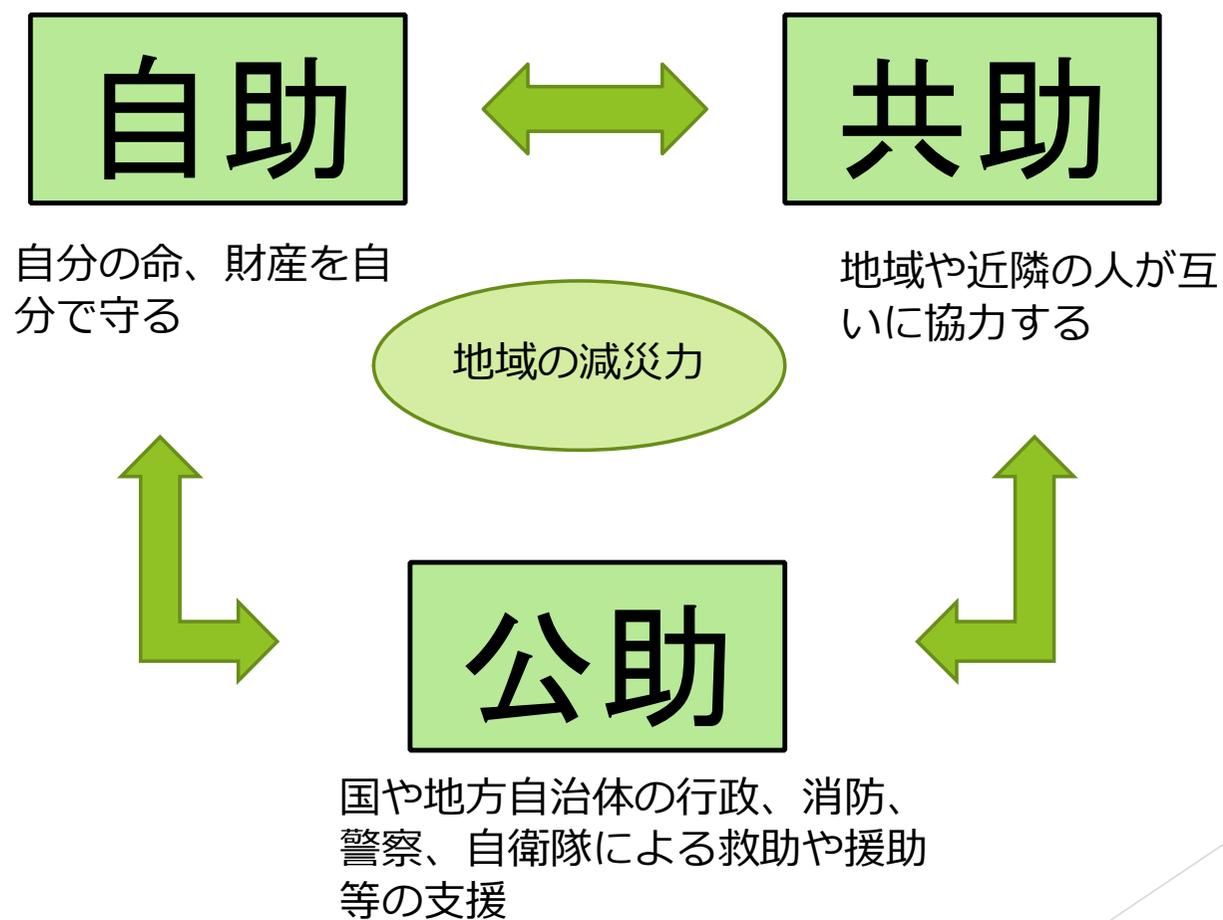
種類	予知性	被災範囲	事前避難
地震 ・揺れ ・液状化 ・津波 ・火災	揺れは予知できない(直前の緊急地震速報のみ) 津波情報あり (揺れの数分後に到来する場合もある)	広範囲で被災する	ほぼ不可能
気象災害 ・河川氾濫 ・内水氾濫 ・土砂災害 ・強風 ・雷	天気予報、河川情報等で規模を含めてほぼ予知できる	広範囲になることもあるが、危険な箇所は限られる	多くは可能

## 4.防災から減災へ



(出典:HOME ALSOK)

## 5. 自助・共助・公助



## 阪神・淡路大震災での事例

### 生き埋めや閉じ込められた際の救助

自力で	家族に	友人・隣人に	通行人に	救助隊に	その他
34.9%	31.9%	28.1%	2.6%	1.7%	0.9%

自助、共助  
97.5%

公助  
2.5%

- ・自助、共助が重要(特に被災直後)
- ・死傷しないためにはまずは自助

## 6.災害リスクの確認

### (1)平時の災害リスクの確認(ハザードマップ)

日立市WEB版ハザードマップ

([https://www.city.hitachi.lg.jp/kurashi\\_tetsuzuki/anzen\\_anshin/1004772/1004793/1004795/index.html](https://www.city.hitachi.lg.jp/kurashi_tetsuzuki/anzen_anshin/1004772/1004793/1004795/index.html))

- ・2023年3月、パソコンやスマートフォンから、いつでもどこでも、災害リスク(ハザードエリア)や避難場所等を確認できるよう、「WEB版ハザードマップ」の運用を開始。
- ・スマートフォンからは日立市LINEから閲覧可能。

### (2)発災時のリアルタイムでのリスクの確認

- ・防災無線(平時に16:55の天気予報が聞こえるか確認要)
- ・日立LINE(河川状況、避難所情報(VACAN)も閲覧可能)

## 7.避難

- ・危険と判断される場合には、日上市からの避難所開設情報を確認して避難する[先ずは一時避難場所で難を逃れ、要すれば避難所へ]。
- ・在宅で危険が無い場合には避難の必要はない(在宅避難)。
- ・平時に持ち出し品を準備しておく。在宅避難の為の備蓄も必要。

